

再評価実施事業調書

番号	7	事業名	河川事業		路線又は箇所名等		二級河川 海老川水系 海老川, 飯山満川		
事業所管課		河川整備課		事業主体			千葉県		
事業化年度	昭和51年度	用地着手年度	昭和51年度	工事着手年度	昭和51年度	工事終了年度	昭和51年度 平成50年度	再評価の理由	再々評価
費用便益比 B/C	6.0 (1.4)	総費用	1,656億円 (212億円)	総便益	9,983億円 (297億円)	基準年	平成30年	供用開始年度	平成50年度

※上段：全体事業費 下段（ ）：残事業費

【事業概要】

(目的)

海老川流域では、昭和30年代後半からの市街化の進展に伴い浸水被害が度々発生した。昭和51年度から下流区間の河川改修に着手し、河口から飯山満川合流点までの区間において、河道拡幅が完了している。

また、支川の飯山満川流域においても市街化が進展しているほか、土地区画整理事業が進められており、流出量の増加が想定される。

このため、海老川及び飯山満川流域における浸水被害の軽減を図ることを目的に、河川改修を進める。

(主な実施内容)

- ・河道改修（河道拡幅、掘削、築堤）

海老川(2,670m), 飯山満川(2,800m)

- ・調節池整備（掘削、築堤、越流堤整備）

海老川調節池, 飯山満川調節池

【事業の進捗状況】(H30年度末見込み)

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	627.2	347.4	279.8	55.4

【社会経済情勢等】

① 流域状況

海老川は、船橋市の北部丘陵地に源を発し、南流しながら船橋市街を貫流して東京湾に注ぐ流域面積27.12km²、の二級河川である。飯山満川は海老川の左支川で、その流域面積は5.45km²である。首都東京に近いことから、高度成長期にはこれら流域において市街化が進展した。海老川下流域は船橋市街地になっていること、また、飯山満川流域では平成8年の東葉高速鉄道の開通や区画整理事業が計画され、今後も人口・資産の集積が見込まれることから、浸水被害の軽減を図ることは必要不可欠である。

② 主な水害状況

- ・昭和59年7月(大雨) 浸水家屋2,064戸 浸水面積35ha
- ・昭和61年8月(台風10号) 浸水家屋2,426戸 浸水面積81ha
- ・平成25年10月(台風26号) 浸水家屋51戸 浸水面積0.6ha

③ 投資効果 [裸書：全体事業、()：残事業]

- ・浸水軽減戸数 3,144戸(690戸) 浸水軽減面積 215ha(60ha)

④ その他(関連事業)

- ・飯山満地区土地区画整理事業 事業開始 H4.1～
- ・海老川上流地区土地区画整理事業 計画中

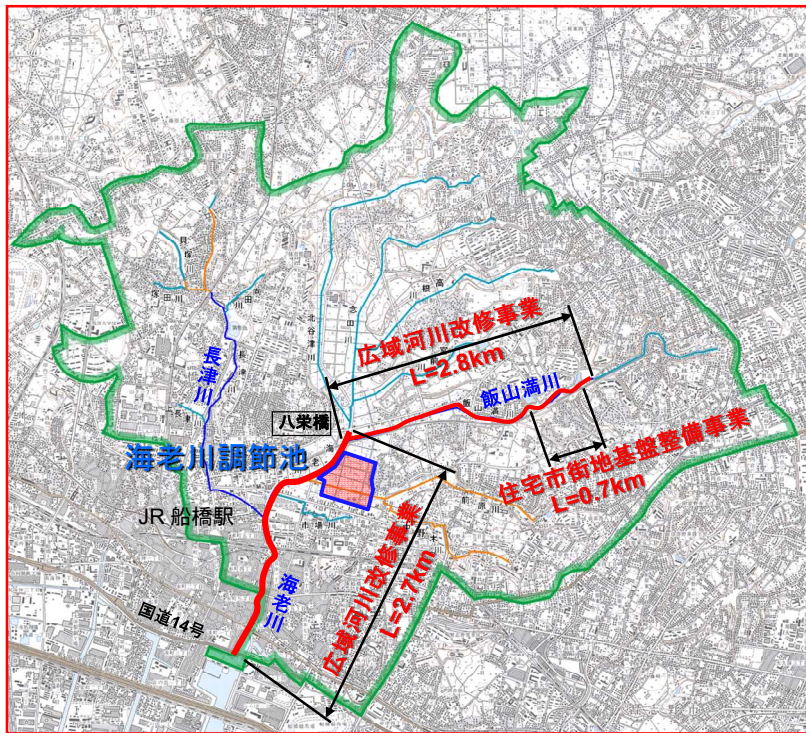
【対応方針(案)】

全体事業の費用便益(B/C)は6.0(残事業1.4)であり、事業の投資効果も見込まれること、また、区画整理事業など市街化の進展により雨水の流出増が見込まれ、本事業への地元からの要望が大きいことから、事業を「継続」し、計画的な事業の推進を図る。

事業概要図

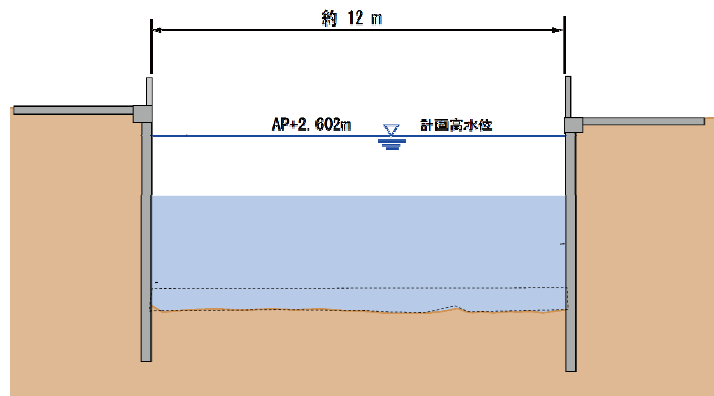
番号	7	事業名	河川事業	路線又は箇所名等	二級河川 海老川水系 海老川, 飯山満川
----	---	-----	------	----------	-------------------------

計画平面図

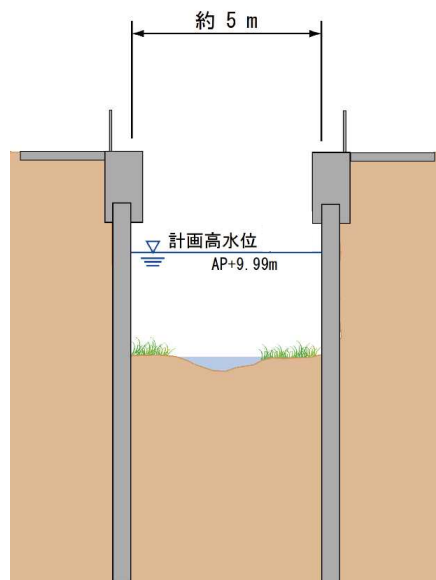


代表断面図

海老川（河口～富士見橋）



飯山満川（東葉高速鉄道沿い）



再々評価事業に関する調書

番号	7	事業名	河川事業	路線又は箇所名等	二級河川 海老川水系 海老川, 飯山満川	
事業化年度	昭和 51 年度	用地着手年度	昭和 51 年度	工事着手年度	昭和 51 年度	
【再評価 (H25 年度) の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成 25 年度	供用開始年度	平成 42 年度	対応方針	継続	
B/C	6.7 [1.4]	総費用	1,290 億円 [249 億円]	総便益	8,612 億円 [360 億円]	
(※上段 : 全体事業、下段 : [] : 残事業)						
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 ○継続することが妥当である。						
再評価時の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況						
	計 画	進捗状況 (H25)		5 年後の推定進捗状況		
全体事業費	627.2 億円	328.3 億円 (52.3%)		435.8 億円 (69.5%)		
うち用地・補償費	290.8 億円	215.9 億円 (74.2%)		248.9 億円 (85.6%)		
うち工事費	336.4 億円	112.4 億円 (33.4%)		186.9 億円 (55.6%)		
【再々評価 (H30 年度) の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成 30 年度	供用開始年度	平成 50 年度	対応方針	継続	
B/C	6.0 [1.4]	総費用	1,656 億円 [212 億円]	総便益	9,983 億円 [297 億円]	
(※上段 : 全体事業、下段 : [] : 残事業)						
現在の進捗状況						
	計 画	進捗状況 (平成 30 年度)				
全体事業費	627.2 億円	347.4 億円 (55.4%)				
うち用地・補償費	286.4 億円	222.4 億円 (77.6%)				
うち工事費等	340.8 億円	125.0 億円 (36.7%)				
再評価後の経過及び処理状況	平成 21 年 2 月 海老川流域懇談会 再評価 (継続が妥当である) 平成 26 年 1 月 千葉県 県土整備公共事業評価審議会 再々評価 (継続が妥当である)					